

第2回 高岡市男女平等推進市民委員会会議記録（要旨）

1 日 時	平成 18 年 8 月 28 日（月） 15:00 ～ 16:00
2 場 所	高岡庁舎 3 階庁議室
3 出席者	・ 委 員 17 名（大石会長、辻副会長、尾崎委員、鎌谷委員、彼谷委員、川田委員、川橋委員、小間委員、西海委員、道具委員、久湊委員、増岡委員、向委員、村上委員、梁瀬委員、山下委員、吉村委員） ・ 事務局 6 名（岩坪経営企画部長、塚原男女平等・共同参画課長、野村所長、亀谷主幹、毛利主査、宮島主事） ・ その他 傍聴者 1 名 報道関係者 1 名
4 内 容	(1)あいさつ (2)男女平等推進プラン及びヒューマンプランの進捗状況について (3)新たな男女平等推進プランについて (4)策定スケジュールについて (5)意見交換 【配布資料】 ・ 資料 1 「男女平等推進プラン及びヒューマンプランの進捗状況について」 ・ 資料 2 「新たな男女平等推進プランの策定について（案）」 ・ 資料 3 「新たな男女平等推進プランの策定スケジュール（案）」 その他 (1)あいさつ ●経営企画部長 ・ 今年 2 月に新市発足後、初めて開催した市民委員会の冒頭、市長の挨拶で委員の皆様へ新たなプランの策定をお願いしたところであり、その諮問書の写しをお配りした。 ・ 男女平等推進プラン策定については、本市総合計画と歩調を合わせながら進めていくかたちでお願いしたい。 ・ 前回（第 1 回）欠席委員の紹介、人事異動に伴う職員の紹介。 ・ 配布資料の確認。 (2)男女平等推進プラン及びヒューマンプランの進捗状況について ・ 事務局より説明（資料 1）。

(3)新たな男女平等推進プランについて

- ・事務局より説明（資料2）。
- ・プラン基本計画の素案作成については、若干名の起草委員により作業を進める。
（起草委員：辻副会長、彼谷委員、小間委員、谷口委員、梁瀬委員、吉村委員、山下委員）

(4)策定スケジュールについて

- ・事務局より説明（資料3）。

(5)意見交換

- 委 員 会社経営をしている立場で、子育てをしている社員をみていると、女性がとても大変であるという印象を受ける。子どもを預ける施設はあるが、施設の場所・時間等に不都合があるのか、まだまだ女性が働きやすい環境になっていないと感じる。
- 委 員 市民委員会の前に行われた職員研修に参加して思ったが、市役所では若い女性職員がなかなか発言しにくい雰囲気があるように感じた。
- 委 員 市役所の各課においては、男女平等・共同参画の視点をもって物事を進めてもらいたい。
- 委 員 今までの（男女平等・共同参画についての）職員研修で、外部講師を招いて実施したことはあるのか。
数値目標を設置するなど、具体的に成果が目に見えるようなプランにしてはどうか。
- 事務局 外部講師を招いた（男女平等・共同参画についての）職員研修は、過去2回程実施している。数値目標については、市民委員会で議論いただいたうえで、可能なものについては設定していきたいと考えている。
- 委 員 市役所で子育てしている女性職員を対象に支援していること、今後予定していることはないか。
- 事務局 市の職員向けの「職員子育て支援プログラム」（次世代育成支援対策法に基づく高岡市特定事業主行動計画）を策定し、育児休業取得率の向上、男性職員の子育て参加促進等、職場環境の向上に取り組んでいる。また、育児休業中の職員に対しては、所属課から業務状況等について、相互に連絡を取り合うこととしている。
- 委 員 育児休業は仕事にブランクができるので、仕事を休まないで育児ができる体制も望まれるのではないかと思う。
- 委 員 中小企業や労働組合のない企業は、現実的に労働基準法さえ守られているかどうかという状況なので、男女平等というとなりに難しくなると思う。
プラン策定には、労働者、行政、労働組合、民間等、それぞれの立場の方々が意見を挙げていくことが大事であると思う。
- ◎会 長 労働組合で男女共同参画を推進する取り組みはあるか。
- 委 員 男女共同参画推進月間を設けたり、研修会や会議の場で少しでも前進するよう努めている。
- 委 員 中小・零細企業の労働者の目線でプランづくりをしていかなければならないと思う。
- 委 員 年老いていくごとに男女平等意識は高まっていると思う。若い人達は、男女平等と言

いながら、自ら実践していない気がする。

○委 員 1人1日勤務を2人半日勤務にする等、短時間勤務を利用して、育児をしながら仕事もできる仕組みが一般企業でもできればよいと思う。

○委 員 短時間勤務や様々な制度を考えていくことは良いことだと思うが、制度を取り入れるには、別の制度や仕組みを総合的に考えていかなければ実現しない。中小・零細企業は取り入れにくいかもしれないが、結局は経営者の考え方一つである。時間とお金をかけ、長期的に考えていくべき大きな課題だと思う。